



「レジリエンス」

校長 門脇 伸也

令和2年11月16日、有人宇宙船「クルードラゴン」に搭乗した日本人宇宙飛行士の野口聡一さんは、打ち上げ前の記者会見で搭乗する宇宙船に「レジリエンス」と名付けました。彼は、その理由について「レジリエンスとは、困難な状況から立ち直ること、形が変わってしまったものを元通りにすること。世界中がコロナ禍で困難に直面している中、協力して元に戻そう、元の生活を取り戻そうと願いを込めたものです。」と語っています。「レジリエンス」とは、ストレスが一定以上かかることで、それに反応して元の状態に戻るような力のこととされています。近年では、個人や組織にも通じる「困難な状態の中でも、しなやかに適応して生き延びる力」という意味でも使われているそうです。私は、この野口さんの会見に力をいただき、録画でも何度も見返す中で、前へと進む勇気が得られました。

今も新宿区は、児童・生徒の新型コロナウイルスの罹患率が東京23区の中で高い数値を示しています。一斉休校や長い期間の分散登校を経験しただけに、以前のような学校生活に近付けたいというのは、学校と家庭の共通した願いだと信じています。しかし、一番優先すべきことは「新型コロナウイルス感染症を校内に持ち込ませない」ことであり、この姿勢が揺るぐことはありません。

次に行うのは、授業や校外学習、学校行事を年間計画に沿って、無理せずに実施し、先を見通せるようにすることです。正直しなやかにとは言いがたいのですが、昨年度までの経験を参考にして、その時の状況を見ながら無理はせずに実施します。今後も、この方向性が大切だと考えています。とりわけ、今年の「第7波」の拡大は、冬の到来と共に如実になり、年明けには1日の罹患者が一万人を超えるほどに膨れ上がりました。先週は、オミクロン株の新たな変異ウイルス「XBB」が東京都内で初確認されたという報道もあり、いよいよ「第8波の到来の兆候か」と警戒もしています。何度もお伝えしていることですが、本校は校内クラスターを一度も発生しておりません。ただし、今も教職員及び児童・生徒の家族の中では、罹患者あるいは濃厚接触者が出ています。本校は、ハイリスク施設に準じた学校であると新宿区に指定されていることから、自宅待機期間もそれに合わせた対応を行っています。

こうした中で、11月5日(土)に第23回運動会を開催するという事は、改めて、児童・生徒や保護者の皆様と教職員が協力して、元の学校生活へ戻していくための確認をしていくということです。教職員は、月曜日の朝は抗原検査キットにより、コロナ感染症の陰性を確認してから勤務となります。児童・生徒の体調が優れない場合には、自宅で待機をするなどして慎重な対応をお願いしています。運動会当日は、久しぶりにたくさんの方が来校します。人数の制限は設けてありますが、皆様の協力をいただいて「校内に新型コロナウイルス感染症を持ち込まない」ことを徹底していきたいと思っています。

繰り返しになりますが、「困難に直面している中、協力して元に戻そう、元の生活を取り戻そう」と願いを込めた「レジリエンス」を確認できる運動会になろうかと思えます。今回の運動会プログラムの表紙絵は、病棟にいる訪問学級の児童の作品です。この児童の「早く学校へ戻りたい」といった願いが、躍動感ある絵に込められています。

最後に、朝夕は一段と冷え込みが増しています。皆様、どうぞご自愛ください。



「4, 5年校外学習を終えて」

小学部

10月6日(木)に、国立科学博物館と戸山サンライズに行ってきました。

国立科学博物館では、2グループに分かれて見学しました。「地球史ナビゲーター」と「系統広場」のエリアは、事前学習で必ず最初に見たいと各グループで決めていた場所で、期待感を膨らませていました。「地球史ナビゲーター」では、スクリーンに映る宇宙史、生命史、人間史の映像や恐竜などの骨といった標本に興味をもってよく見ていました。「系統広場」では、空に浮くマッコウクジラの模型に目を奪われ、他にも地球の多様な生き物たちの標本に圧倒されました。その後は、戸山サンライズに移動し、昼食を食べました。昼食の後は、戸山サンライズ内を探検したり、友達と遊んだりしてゆっくり過ごしました。

様々な物を見ることができ、よい経験となった校外学習でした。



「楽しかったね！1組クラス遠足」

小学部

9月30日(金)、小学部1年生の3名は入学して初めてとなるクラス遠足で、科学技術館と北の丸公園に行ってきました。

「みて！さわって！うごかして！」をテーマにした遠足の事前学習は、登校日が合わず3名が個々に取り組みましたが、遠足当日は見事に3名全員が顔を揃え、元気に参加することができました。科学館では、竜巻や水の渦を巻き起こす装置や、全身を多方向から映す不思議な映像などを見たり触ったりして楽しむ姿がたくさん見られました。さらに、館内では個室が用意され、休憩や昼食をゆっくりと行うこともできました。バスの駐車場まで北の丸公園内をみんなで散歩しましたが、鳥や虫の鳴き声に耳を傾けたり、どんぐりや落ち葉を見つけたりなど、秋を感じさせる素敵なひと時となりました。



「西新宿小学校との学校間交流」

小学部 1・2組

10月14日(金)に、今年度2回目の学校間交流を行いました。今回は、西新宿小学校4年生と、8つのグループに分かれてオンラインで交流をしました。

まず自己紹介では、自分の名前と好きな物を文字カードや絵カードで発表し合いました。西新宿小からは、手話ダンス「やってみよう」と、学校にまつわるクイズの発表があり、本校からは手話入りの校歌を発表しました。

西新宿小の児童7人から9人のグループとゆっくりと時間をかけ、歌やクイズで親交を深めることができました。



「西新宿中学校E組との交流会」

中学部

10月5日(水)、西新宿中学校E組の生徒とオンラインで交流会を行いました。互いに自己紹介をした後、レクリエーション活動で「ターゲットボッチャ」を行い、「新宿養護学校V S 西新宿中学校」で試合をしました。

お互いの投球する様子を見て、「もう少し遠くへ転がれ!」「上手かった!」「頑張れ」など、オンラインでも両校から多くの声援が飛び交い、白熱した試合となりました。最後は健闘を称え合う大きな拍手が起こり、お互いの感想発表からも楽しんで交流できたことが伝わってきました。オンライン交流ならではの盛り上がりのある、とても充実した交流となりました。



研究部より

小学部の高学年こすもす・すみれグループでは、子どもたちの表現活動の充実を図るため、タブレット端末を使用した授業研究を行っています。

1学期には、国語・算数の授業で、児童一人一人のタブレット端末を使用して絵本の読み聞かせを行ったり、「オクリンク」を使用した学習に取り組んだりしました。絵本の読み聞かせでは、自ら画面に触れてページをめくることで、子どもたちがより集中して絵や文字に視線を向けている様子が見られました。「オクリンク」を使用した学習では、授業で用いた図形やイラストを画面に映し、実際に触れて動かすことで、学習の振り返りをしました。

2学期には、音楽の合奏の場面で、スイッチを用いてタブレット端末を操作し、演奏する取り組みを行っています。その他にも、曲の雰囲気視覚的にイメージしたり、音を振動で感じたりして、音楽を楽しめる授業の研究を重ねています。

今後も、ICT機器をはじめ様々な教材・教具を使いながら、子どもたちの表現活動がより豊かになるような工夫をしていきたいと思えます。

